

東北地方 1か月予報

(3月1日から3月28日までの天候見通し)

平成15年2月28日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

天気は概ね周期的に変化しますが、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は、期間の前半曇りや雪または雨の日が多く、後半晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年並か高い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は低い、3~4週目は平年並か高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 3月 1日(土) ~ 3月28日(金)

1週目 : 3月 1日(土) ~ 3月 7日(金)

2週目 : 3月 8日(土) ~ 3月14日(金)

3~4週目 : 3月15日(土) ~ 3月28日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日14時30分 次回は3月7日

3か月予報:3月25日(火曜日)14時00分

暖候期予報:3月10日(月曜日)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	3.3	81.8	153.2	2.1	2.8	4.1
新庄	1.7	100.6	103.9	0.5	1.2	2.6
若松	2.7	58.1	126.3	1.2	2.1	3.8
深浦	2.4	70.7	104.6	1.1	1.8	3.3
青森	1.8	63.9	125.6	0.4	1.2	2.8
むつ	1.2	69.9	136.7	-0.1	0.6	2.1
八戸	2.0	46.3	156.1	0.7	1.4	3.0
秋田	3.0	83.6	120.1	1.6	2.4	4.0
盛岡	1.6	70.8	151.1	0.1	0.9	2.6
宮古	2.8	80.2	165.0	1.5	2.2	3.7
酒田	4.0	92.2	111.6	2.8	3.5	4.9
山形	2.8	60.5	132.3	1.4	2.2	3.8
仙台	4.3	64.7	165.3	3.1	3.8	5.1
石巻	3.5	62.1	171.3	2.3	3.0	4.4
福島	4.6	67.5	161.7	3.3	4.1	5.6
白河	3.3	63.0	165.3	2.0	2.8	4.3
小名浜	6.0	93.6	171.2	4.9	5.6	6.7

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.4	84~112	94~107
東北日本海側	-0.4~+0.4	88~108	93~107
東北太平洋側	-0.4~+0.5	80~118	96~107

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.6~+0.7	-0.3~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.3~+0.6
東北太平洋側	-0.7~+0.6	-0.7~+0.6	-0.3~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成15年2月28日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(3月1日~3月28日) :

天気は概ね周期的に変化しますが、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は、期間の前半曇りや雪または雨の日が多く、後半晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(3月1日~3月7日) :

期間の初めと終わりに気圧の谷の影響で天気のくずれる所があるでしょう。期間の中頃は冬型の気圧配置となるため、東北日本海側中心に雪が降り、東北太平洋側では概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(3月8日~3月14日) :

気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置が続き、平年に比べ、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は低いでしょう。

3~4週目(3月15日~3月28日) :

天気は概ね周期的に変化し、東北地方は晴れの日が多い見込みです。

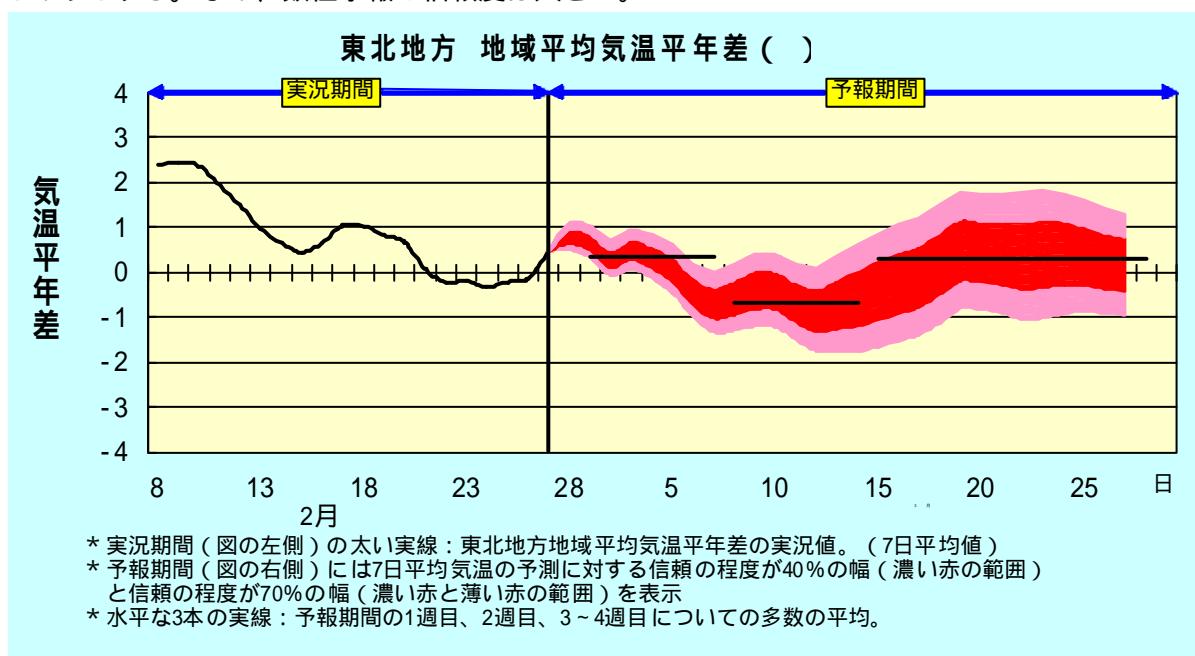
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

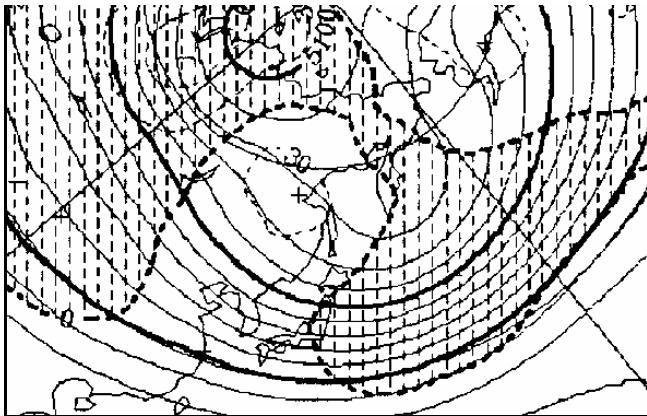
	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.9日	2.5日	2.8日	6.6日
東北太平洋側	18.1日	4.7日	4.5日	8.9日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目「平年並」、2週目「低い」、3~4週目「平年並」を予測している。予報は、その他の資料から3~4週目を「平年並か高い」に変更するほかは、数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は大きい。



3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の500hPa高度・偏差
等高線：60m毎、偏差：30m毎、陰影部：負偏差

500hPa高度・偏差

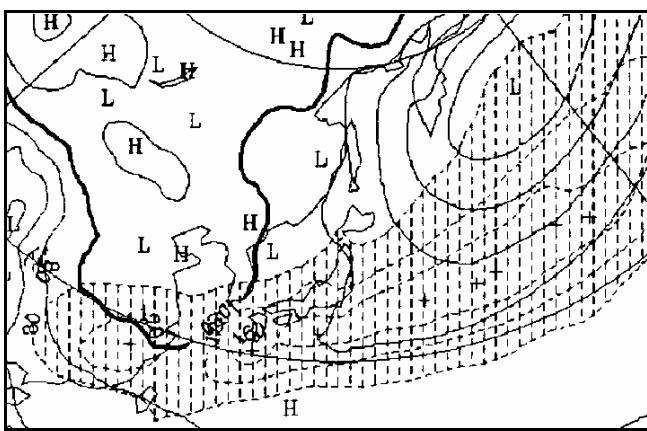
月平均で見ると、大陸から日本にかけては正偏差が広がるが、日本の東海上は広く負偏差となり、東北地方も負偏差に覆われる。偏西風の流れは日本の東が谷場（東谷）になっており、寒気の影響を受ける時期がある見込み。

週別（図略）では、2週目まで日本付近に負偏差が広がり、寒気の影響を受けやすい。3~4週目は、日本付近広く正偏差に覆われ、寒気の南下は弱く、天気は概ね周期変化する見込み。

地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近は平年と同様の冬型の気圧配置となっている。ただし、等圧線の間隔は広がってきており、天気は周期変化が基調となる見込み。また、日本の南岸にまとまった降水域が予想される。

週別（図略）では、1週目に日本の南岸の低圧部が明瞭だが、東北地方は冬型の気圧配置となる。2週目は、日本付近の冬型の気圧配置が平年より強く、寒気の影響を受けやすい。3~4週目は、日本付近の等圧線の間隔が広がり、天気は概ね周期変化する見込み。



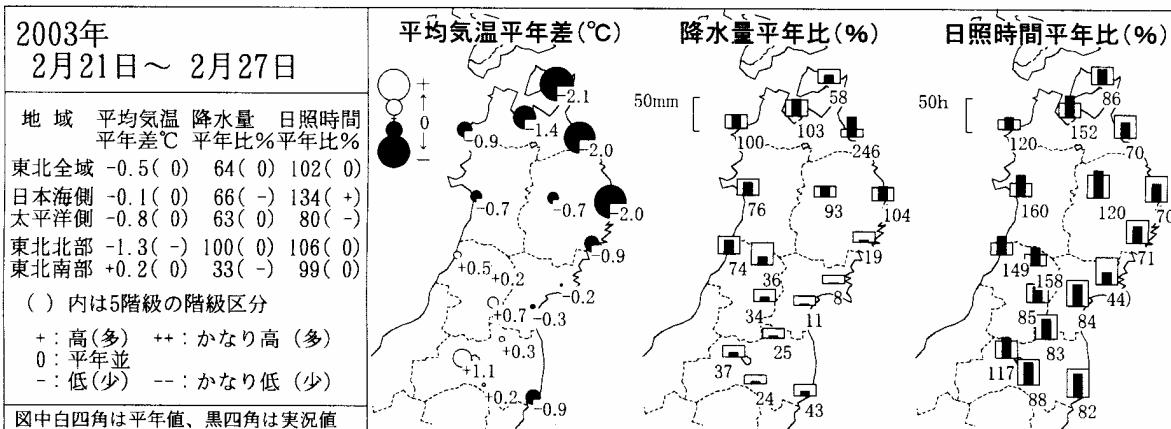
月平均の地上気圧と降水量
等圧線：4hPa毎、降水量：40mm毎、陰影部：80mm以上

4. 最近1週間（2月21日～2月27日）の天候の経過

この期間、天気は短い周期で変化したが、晴れの日が多くかった。

また、東北北部は寒気の影響を受け易く、気温は平年を下回る日が多くかった。特に、20~21日は日本の南岸を発達しながら通過した低気圧の影響で、東北太平洋側の北部沿岸では湿った大雪となり、船舶被害や停電等が発生した。

平均気温は、東北北部で平年差-1.3と低く、東北南部で平年差+0.2と平年並だった。降水量は、東北北部で平年比100%と平年並、東北南部で平年比33%と少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比134%と多く、東北太平洋側で平年比80%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）